

「現在のエネルギートレンドを気候変動対応型へ」傍聴報告

2012年12月4日

一般社団法人海外環境協力センター (OECC)

本傍聴報告は、2012年11月26日～12月7日にカタール・ドーハで開催された国連気候変動枠組条約第18回締約国会議 (COP18) において開催されたサイドイベントの傍聴報告です。

- タイトル：省エネルギーとガス利用—現在のエネルギートレンドを気候変動対応型へ (A focus on energy efficiency and gas: from current trends to an effective response to the climate challenge)
- 日時：2012年12月4日 (火) 13:15 - 14:45
- 主催：国際エネルギー機関 (International Energy Agency(IEA))
- 会場：Side Event Room 6 (Qatar National Convention Centre)
- プレゼンター：Philippe Benoit、Laura Cozzi、Christina Hood、Ellina Levina (以上、IEA)

■ 概要

- 世界のエネルギー需要は、2035年までに30%以上増加する。増加分の60%は中国、インド、中東が占める。このトレンドは気候変動に大きな影響を及ぼす。
- 省エネのポテンシャルは大きく、省エネ施策はGDP成長の停滞や温室効果ガス排出源の固定化 (Carbon Lock-in)の解決につながる。
- 省エネ施策は実施し易いが、それでも多くの障壁がある。省エネの大きなポテンシャルを実現するためには、①優先順位の設定、②省エネがもたらす複数の恩恵 (省エネ、節約、エネルギー安全保障) とその反動による経済的な調和、③認知度と魅力度の向上、④コミットメントと忍耐、⑤より多くの資金 (気候基金を含む)、⑥政策的アプローチの評価・調整・適応、⑦組織の能力強化、⑧エネルギー大量消費型の既存の常識からの脱却が必要である。
- IEA は世界のエネルギーセクター全体の炭素強度 (単位エネルギーあたりの炭素排出量)を分析した。その結果によると、炭素強度は1990年以降、京都議定書などの取り組みを行っているにも関わらず、ほとんど変化がない。2度目標を達成するためには、炭素強度を現在の2.4tCO₂/toeから、2030年までに1.4tCO₂、2050年までに0.9tCO₂/toeに下げなければいけない。
- 非在来型ガス¹は既存の市場を大きく変えるだろう。新しい資源が天然ガスの価格を下げ、石炭を代替する。天然ガスは気温上昇を2度以内に抑えるという目標達成のために大きな役割を果たす。
- しかし、天然ガス単独では2度の目標達成はできない。省エネルギーと再生可能エネルギー、そして炭素回収・貯留 (CCS) の組み合わせが不可欠である。

¹通常の油田・ガス田以外から生産される天然ガスで、シェールガスやサンドガスなどがある。

■ 質疑応答

Q. 2010年～2035年のエネルギー需要予測はどのように推計しているのか。

A. エネルギー需要やエネルギー貿易のトレンド、GDP成長率などの仮定に基づいて推計している。

Q. 化石燃料への補助金を廃止することで、CO₂の排出を抑制できるとの報告があったが、化石燃料への補助金とは何か。

A. 化石燃料や石油製品の販売に対する補助金を指している。化石燃料の生産に対する補助金は分析の対象としていない。

Q. CCSのコストが低減されれば、世界全体に広がるのか。また、CCSとガスの組み合わせはあらゆるセクターで利用可能か。

A. CCSの広範な活用により、化石燃料の長期利用が可能になる。CCSを普及するためには、CCSへの投資に対して適切なインセンティブを付与する必要がある。現在、カナダ、米国、ノルウェーなどにおいて、合計8つのパイロットプロジェクトが実施されている。技術的な信頼性は高いが、コストが課題である。また、貯留先として利用可能な場所や輸送コストを特定する必要がある。なお、CCSは発電部門だけでなく、産業部門、例えば製鉄所などでも活用が可能である。

Q. シェールガスなど非在来型ガスのリスクや経済的・技術的な制約は。

A. 2つ考えられる。1つ目は、環境への影響リスクである。IEAは、持続可能な非在来型ガス開発のための「ゴールデン・ルール」を提案している。2つ目は、普及に関する制約である。例えば米国には特有の地理的条件があるため、米国の非在来型ガス開発の事例は、他国には応用できない。

Q. 中国はクリーンコール技術の開発・普及に力を入れているが、クリーンコール技術とCCSの組み合わせは考えられるのか。

A. 中国には、莫大なエネルギーのニーズがあるため、異なるエネルギーソースを確保する必要がある。クリーンコール技術も重要な役割を果たすだろう。

(報告者：OECC 中尾有伸)

COP18 サイドイベント傍聴報告については以下をご覧ください。

日本語版：http://www.mmechanisms.org/relation/details_oecc_COP18report.html

英語版：http://www.mmechanisms.org/e/relation/details_oecc_COP18report.html